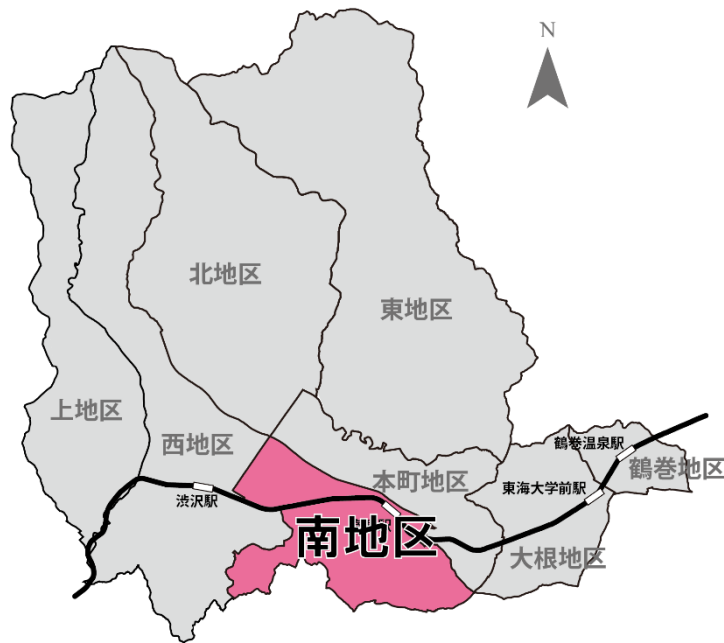


南地区

総合計画はだの2030プラン後期基本計画

地域が考えるまちづくり計画案



令和7年3月

南地区
地域まちづくり計画策定会議

1 現状と課題

(1) 交通安全、防犯・防災

幅員の狭い道路が多く、カラー舗装の幅が狭い箇所もあるため、子どもの登下校時など、交通安全対策が必要です。

また、交通渋滞対策、防犯のための活動や整備、空家等対策も引き続き求められています。

<策定会議の意見より>

●安全に通行できる道路環境が必要

・狭隘道路が通学路に多く、カラー舗装も人が一人通れる程度の幅しか無い箇所がある。

●空家等対策の強化が必要

・空家が増えています。空家の放置は防犯・防災の面でも、重要な課題です。

(2) 高齢者の環境

地域高齢者支援センターの取組みを高齢者の方々に周知し、活用を促すことが必要です。

また、一人暮らしの高齢者支援のため、情報の共有をはじめ高齢者の憩い場の提供などの様々な取組みが求められています。

<策定会議の意見より>

●高齢者の居場所づくりが必要

・自治会館などを利用した高齢者の憩い場の提供に取り組む必要がある。

1 現状と課題（続き）

(3) 子育て環境

南地区は、子どもの数が市内の他の地区と比べて多いことから、地域全体で子どもの健全育成を図るため、子ども会活動や地域行事などを通じた交流促進の取組みを進めていく必要があります。

また、子どもたちの見守り体制の強化のため、学校と地域との交流がより必要です。

<策定会議の意見より>

● 子育て世代との多様な交流機会の創出が必要

- ・ 子ども会自体存在しない自治会がほとんどである。子ども会が無くても、神社のお祭りや地域の運動会など、コミュニティがあるので、参加者の増加に向けた取組みをしていきたい。
- ・ コロナ禍を経験した未就園児をもつ親子は交流が希薄。

(4) 自然環境・にぎわい

秦野駅周辺に商業施設が少なく、学生等が集まれる場所が少なくなっています。

地区内には「はだの桜みち」をはじめとして、カルチャーパーク、震生湖公園、今泉名水桜公園、室川、湧水地、ホタルの生息地など、桜や水のスポットが多くあり、人を呼び込める貴重な資源となっています。

その豊かな自然景観を生かした、更なる魅力の向上が求められています。

<策定会議の意見より>

● 「水」に着目することも重要

- ・ 室川や湧水地、ホタルの生息地など、「水」のスポットも加えたらどうか。

(5) 地域内での交流

自治会加入率の低下が進み、自治会による様々な地域活動の継続が困難になりつつあります。地区内には中学校や高校が立地しており、地域の人々との交流を通じ、学生・生徒が地域活動の担い手となることが期待されています。

また、上智大学短期大学部の閉校に伴い、学生との交流の存続が危惧されます。

<策定会議の意見より>

●教育機関の実情、立地に応じた連携・交流が必要

- ・ 秦野総合高校の生徒のみならず、南中学校、南が丘中学校の生徒との交流も必要になってきている。
- ・ 上智大学短期大学部が数年後に閉校します。その跡地の行方は、南地区住民にとっても大きな関心事です。現在、彼女たちは、市のイベントや小学校の外国語活動にボランティアとして従事してくれていることもあり、短期大学部の閉校は地域の痛手です。（跡地の有効活用できる市の政策などを模索してもよいのでは。）

2 目指すまちの姿

(1) 目指すまちの姿(将来像)

豊かな水と緑に囲まれ、心豊かなふれあいもある素晴らしい環境で大人～若者～子どもがつながる住んでみたいと思うまち

(2) 地域づくりの基本目標

- ①交通安全、防犯、防災対策による安全で安心して暮らせるまち
- ②ふれあいやいたわりによる、誰もが生きがいを持って暮らせるまち
- ③誰もが安心して子育てができ、子どもたちが心豊かに成長できるまち
- ④恵まれた自然を生かした観光地、名所づくりによる活力に満ちたまち
- ⑤地区にかかわる様々な人々が交流するあたたかいまち

<策定会議の意見より>

●若者から高齢者まで幅広く住んでみたいと思うまち〈将来像〉

- ・ 安心・安全な住環境。
- ・ 素晴らしい環境で(具体的にする必要あり)→心豊かなふれあいもある。
- ・ 大人～若年～子どもがつながるまちづくり。
- ・ 文章が長くなるため、「安心・安全で」、「誰もが」を削除する。

●障害の有無や年齢等に関係なく暮らしやすい地域〈地域づくりの基本目標②・③〉

- ・ 赤ちゃんお年寄り障害のある方全ての方が分けへだてなく暮らしていくことができる地域。

3 地域版リーディングプロジェクト

【プロジェクト名】

桜を活かした、地域の活性化

【プロジェクトの背景・目的】

● 区内には桜の名所が多い

- 南地区は、「はだの桜みち」をはじめとして、カルチャーパーク、震生湖公園、今泉名水桜公園など、桜のスポットが多くあり、春先に地域の人々の目を楽しませている。

● しかし、一部を除き、桜を楽しめる環境が整備されていない

- これらの桜は、カルチャーパークなど、一部を除き、外部から多くの人を呼び込むための環境が整備されていない。（例：駐車場が十分でない、休憩や買い物を楽しめる店舗が少ないなど）また、桜の名所が区内の各所に点在しているものの、それらをまとめて楽しむことが難しい。

● 地域活動の担い手として、学生・生徒の活躍が期待されている

- 区内に中学校や高校などが立地している強みを生かし、地域住民と学生・生徒との交流を深め、地域課題に連携して取り組むことが期待される。

<策定会議の意見より>

● 教育機関の実情、立地に応じた連携・交流が必要（再掲）

- 秦野総合高校の生徒のみならず、南中学校、南が丘中学校の生徒との交流も必要になってきている。
- 上智大学短期大学部が数年後に閉校します。その跡地の行方は、南地区住民にとっても大きな関心事です。現在、彼女たちは、市のイベントや、小学校の外国語活動にボランティアとして協力してくれていることもあり、短期大学部の閉校は地域の痛手です。（跡地の有効活用できる市の政策などを模索してもよいのでは。）

3 地域版リーディングプロジェクト（続き）

【プロジェクトの内容】

- **はだの桜みちの地域ブランド化**
 - ・ はだの桜みち沿道等を活用したコーヒーサービス、野菜、商品等の販売
 - ・ 商店主と連携した、桜みちを題材とした商品によるブランド化
- **桜に対する地域住民等への意識付け**
 - ・ 複数の自治会の連携による、桜のシーズン前後の美化清掃の実施
 - ・ 秦野駅南口で桜を感じられる工夫
 - ・ 尾尻隧道のトンネル内に、桜をテーマとした子どもの絵を展示するなどの工夫
- **地区内の桜を回遊できるための工夫**
 - ・ 地区内に点在する桜のスポットを回遊するための仕組み（散歩コース、マップ作り、ガイドツアーなど）

【推進体制】

- **秦野総合高校や中学校などとの連携**
 - ・ 地域と学生・生徒の協働によるイベントの開催など

<策定会議の意見より>

- **教育機関の実情、立地に応じた連携・交流が必要（再掲）**
 - ・ 秦野総合高校の生徒のみならず、南中学校、南が丘中学校の生徒との交流も必要になってきている。
 - ・ 上智大学短期大学部が数年後に閉校します。その跡地の行方は、南地区住民にとっても大きな関心事です。現在、彼女たちは、市のイベントや、小学校の外国語活動にボランティアとして協力してくれていることもあり、短期大学部の閉校は地域の痛手です。（跡地の有効活用できる市の政策などを模索してもよいのでは。）
- **季節に応じた地域清掃を実施することも必要**
 - ・ 毎年9月に市内一斉美化清掃を行っているが、南地区は春の桜が散った頃に実施するというのも良いと思う。
- **はだの桜みち沿道住民の機運の高まりが必要**
 - ・ はだの桜みちの沿道住民からは、渋滞や花びら・落ち葉などの苦情が寄せられているが、沿道住民が自発的に取り組むような機運の高まりも必要。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
① 交通安全、防犯、防災対策による安全で安心して暮らせるまち	●地域ぐるみでの防犯パトロールの強化	自治会
	●住民の防災意識の向上、地域の防災体制の強化、行政と連携した空家等対策の推進	地域全体・行政
	●登下校時の安全確保に向けた取組み ・登下校時の見守り、あいさつ運動の実施	自治会・PTA

<策定会議の意見より>

●地域一体となった防犯体制が必要

- ・パトロールの強化は、自治会の会員の高齢化などの課題が残るため、消防団との連携などを模索したい。

●空家等対策の強化も重要

- ・空家が増えています。空家の放置は防犯・防災の面でも、重要な課題です。
- ・空家等対策は行政でも行っているため、具体的な記載にすべき。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
② ふれあいやいたわりによる、生きがいを持って暮らせるまち	●声かけや見守り、交流イベント等を通じた高齢者をひとりにしない環境づくり	地域全体
	●スポーツを通して健康増進を図る機会や場の充実 ・ 広場等の有効利用（地域コミュニティの起点）	地域全体
	●地域高齢者支援センターの活用 ・ 地域高齢者支援センターとの連携強化 ・ 地域高齢者支援センターが実施している取組み等について、自治会で周知	自治会・行政
	●高齢者等に関する情報の共有 ・ 自治会長、民生委員それぞれの高齢者に関する情報を組み合わせた情報共有の更なる充実	自治会長・民生委員

<策定会議の意見より>

●多様な交流機会が必要

- ・ 色々な方と学生とのかかわり。
- ・ 地域高齢者への支援の充実(軽いスポーツ、お茶会など)。
- ・ 高齢者と若者が何か交流できるイベント。
- ・ 自治会館等を憩いの場として提供する。

●交流の場づくりが重要

- ・ ゲートボール場が、利用者のいない空き地になってしまっている。ベンチなどの設備が撤去されてしまい、地域コミュニティの起点になっていない。別の利用方法も含め、有効利用を図りたい。
- ・ ゲートボール場を含む広場の有効活用でよいのではないか。

●高齢者等に関する情報の共有に係る実態の反映が重要

- ・ 高齢者等避難行動要支援者は自治会長、民生委員で情報共有。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
③ 安心して子育てができ、子どもたちが心豊かに成長できるまち	●各種団体の連携による農業体験、自然体験等の親子ふれあい活動の充実	農業従事者・農協・学校・PTA・子ども会
	●子どもの見守り・思い出づくり等のための自治会による活動支援 ・地域で子どもたちの見守りや、ふるさとでの思い出づくりの活動がより充実するよう、児童館など、地域における見守り活動の充実 ・子ども向けの地域行事（春祭り、体育祭、納涼祭、どんど焼き等）の継続による、親が地域にかかわる機会の提供	自治会 地域全体
	●自治会と学校等の連携 ・自治会と学校等が連携し、見守りボランティアや登校班等による町内の子どもたちの顔が見える関係づくり	自治会・小中学校等

<策定会議の意見より>

●地域の実態に応じた、子どもの見守りに係る活動支援が重要

- ・共働き世帯が多い中で、子ども会の設置は指揮を執る保護者が不在のため難しい。見守りボランティアなどでは、すでに高齢者にご負担を掛けているため、取組みの見直しが必要か。
- ・児童館を利用する子どもの見守り活動支援も必要。

●自治会、学校に加え、保護者（PTA）との連携が重要

- ・自治会と家庭会（小学校の登校班）との連携強化
- ・登校班については、自治会からPTAの地区委員を選出していただいているが、家庭会という組織はPTAの中には無い。
- ・家庭会をPTAに変更してはどうか。
- ・自治会で連携を必要としているのは、PTAというよりは家庭会のような自治会側の組織である。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
④ 恵まれた自然を生かした観光地、名所づくりによる活気に満ちたまち	<ul style="list-style-type: none"> ●湧水地の保全によるドジョウ、ヤゴ等が生息する水辺空間づくり ・ 室川を生かしたホタル（今泉ホタル）の生息保護強化 	湧水所有者・自治会
	<ul style="list-style-type: none"> ●秦野駅南口のロータリーやせせらぎの清掃、美化活動の強化 	自治会・地元有志
	<ul style="list-style-type: none"> ●はだの桜みちの地域ブランド化 ・ はだの桜みち沿道等を活用したコーヒーサービス、野菜、商品等の販売 ・ 商店主と連携した、桜みちを題材とした商品によるブランド化 ・ 落ち葉拾いなどの沿道整備 ・ 桜に対する意識付け（複数の自治会の連携による、桜のシーズン前後の美化清掃の実施） 	自治会・各商店主 各商店主・商工会議所・行政 地域全体
	<ul style="list-style-type: none"> ●震生湖の魅力向上に向けた取組み ・ 震生湖周辺の草刈、清掃活動（将来的には震生湖ではごみを捨てられない雰囲気醸成し、ごみ拾いが不要な湖を目指す） ・ 震生湖周辺の雑木林の整備と竹林などの木材の有効活用 	震生湖部会・行政

<策定会議の意見より>

- 地域資源である室川（ホタル）を活用することが重要
 - ・ 室川を生かしホタル(今泉ホタル)の生息保護強化
- 季節に応じた地域清掃を実施することも必要（再掲）
 - ・ 毎年9月に市内一斉美化清掃を行っているが、南地区は春の桜が散った頃に実施するといいうのも良いと思う。
 - ・ はだの桜みちの沿道住民からは、渋滞や花びら・落ち葉などの苦情が寄せられているが、沿道住民が自発的に取り組むような機運の高まりも必要。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
⑤ 地区にかかわる様々な人々が交流するあたたかいまち	●自治会活動活性化への取組み ・自治会加入のメリットを伝えるなどのアプローチ ・自治会加入後の支援 ・顔の見える関係づくりの継続	自治会・行政
	●地域の活動拠点の検討 ・駅前や公民館などでの若者が集う場所、地域の交流を支える活動拠点の検討	地域全体・行政
	●上智大学短期大学部跡地を利用した交流拠点づくり	自治会・上智学院
	●秦野総合高校との交流 ・地域と学校の連携強化（天文台を活かした取組み等） ・学校と地域が連携した清掃活動等の継続 ・生徒たちと地域のふれあい祭り等を通じた交流	自治会・秦野総合高校
	●地区内の桜を回遊できるための工夫	地域全体

<策定会議の意見より>

- 「若者」に着目した居場所づくりが重要
 - ・ 秦野駅周辺に若者が集う場所の確保(駅舎周辺の積極的な利用)
- 上智大学短期大学部の跡地活用に向けた検討を進めることが重要
 - ・ 上智大学短期大学部の跡地を利用した交流拠点づくり

5 南地区地域まちづくり計画策定会議のあらまし

(1) 地域まちづくり計画策定会議委員（選出分野）

南地区自治会連合会	青少年相談員	民生委員
レクリエーション協会	青少年育成	体育協会
防犯指導員	南小学校PTA	南が丘中学校PTA
県立秦野総合高校		

委員数15名

(2) 主な検討経過

回数	日程・会場	内容
第1回	令和6年11月12日（火） 17：00～ 南が丘南公民館 セミナー室	<ul style="list-style-type: none">地域まちづくり計画の目的や策定の進め方等の確認策定に当たっての基本情報の共有前期地域まちづくり計画に対する意見（課題カードの作成）
第2回	令和6年12月10日（火） 17：00～ 南が丘公民館 セミナー室	<ul style="list-style-type: none">課題カードの取りまとめ結果を踏まえた意見交換地域として実施していく取組みについての検討
第3回	令和7年1月14日（火） 17：00～ 南が丘公民館 セミナー室	<ul style="list-style-type: none">原案を踏まえた意見交換

